

国際交流つうしん

P.4 はじめてのにほんご in ちば 生活オリエンテーションより



筆遣いに興味津々



大好きな言葉

書道体験



力作といっしょにハイチーズ!



本日のお題「イルミネーション」



講師の手際の良さに「わあすごい!」



子ども大人も夢中で巻き巻き



きれいにできたかな

房総太巻きづくり



日本語でのスピーチ



「おめでとう。よく頑張りましたね!」

閉講式



全てのクラスを終えました!

目次

- P.2 国際理解セミナーを開催しました
- P.3 神田外語大学と包括協定を締結しました
セミナー「外国人保護者の子育て体験から
考える多文化共生」を開催しました
- P.4・5 事業報告（令和7年11月～令和8年2月）
- P.6 令和8年度以降の
千葉県国際交流センターの広報について
令和8年度事業計画
- P.7 JICA千葉デスクのページ
- P.8 世界からようこそ千葉県へ!
～ミャンマー連邦共和国～

広告

「日本語を教える」としたら **スリーイーネットワーク**



外国人のための
**日本語で学ぶ
ライフプラン**
—健康で安心して暮らすために—

好評発売中

就労・就学のために来日した人が、自身の目標を達成するためのライフプランを考え、日本滞在中に遭遇する可能性のあるリスクを回避するための手段、トラブルに巻き込まれた時の対応や相談の手段を学ぶことができるテキストです。

重要語彙の翻訳、教師用ガイド、教材紹介動画→



移民女性のリプロダクティブ・ジャスティス・プロジェクト 著
1,100円(税込)B5判

広告

入管手続きは行政書士にお任せ下さい。

申請取次行政書士に申請依頼をすると、申請人本人は
**出入国在留管理局への出頭が
免除されるので、仕事や学業に
専念**することが可能です。

お問い合わせは…

 **千葉県行政書士会**

www.chiba-gyosei.or.jp/



〒260-0013 千葉県千葉市中央区中央4丁目13番10号

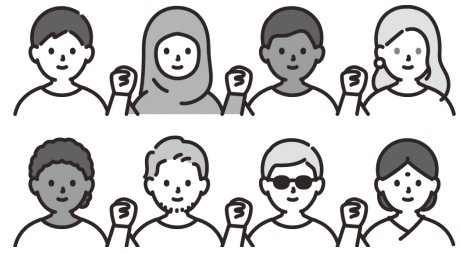


イベント 報告

国際理解セミナーを開催しました

千葉県国際交流センターでは、県民の国際理解をより一層深めることを目的として、年に2回「国際理解セミナー」を開催しています。

1回目は千葉県との共催、2回目はJICA東京との共催により実施しており、国際交流・国際協力や多文化共生の分野において第一線で活躍されている方々を講師にお招きしています。今年度は、1回目のセミナーにタレントのセイン・カミュさん、2回目には紛争ジャーナリストの下村靖樹さんにそれぞれの豊富な経験や具体的なエピソードを講演いただきました。参加者が国際社会の現状や課題について考え、理解を深めるきっかけとなりました。



千葉県国際理解セミナー（共催：千葉県）

(12/7 @千葉県文化会館)

本セミナーではタレントとして活躍されているセイン・カミュさんを講師にお招きし、「セイン・カミュが語る 僕らはみんな地球人」と題した講演をしていただきました。セインさんは、さまざまな国で暮らす中でアイデンティティに悩んだ時期もあったものの、現在では、各国での経験が自分を形づくっていると前向きに捉えていると語られました。また、外国人が日本のルールや文化を尊重すること、日本人も意思表示をはっきり行うことなど、共生に必要なコミュニケーションのポイントを分かりやすく説明されました。

講演後には、千葉市で活動するジュニアコーラス・フェアリーズの子どもたちに合唱をご披露いただきました。フィンランドの自然や郷土、家族への愛をテーマにした歌「Laulu perunoiden kiehuessa」や「小さな世界」などを、澄んだ歌声で会場に届けてくださいました。

参加者からは、「体験を元に自然体で話され、共感した」「楽しい語り口調の中に、鋭い指摘があった」「心が洗われるような美しい歌声だった」などの感想が寄せられました。



親しみやすい人柄で語るセインさん

国際理解セミナー（共催：JICA東京）

(2/15 @千葉市文化センター)



戦争体験で傷ついた子どもたちについて語る下村さん

2回目のセミナーは、紛争ジャーナリストの下村靖樹さんによる講演会と、JICA教師海外研修に参加した教員による研修報告会の二部構成で実施しました。（報告会の詳細については、本会報7ページをご覧ください）

下村さんはアフリカの紛争地における豊富な取材経験を持ち、その経験からルワンダ、ソマリア、ウガンダで出会った子どもたちとのエピソードをはじめ、各地で紛争が起こる背景や、ご自身の目で見た紛争地の現状についてお話しいただきました。

紛争地では、子どもたちが誘拐されて子ども兵士として戦闘に参加させられていることや、望まない結婚等によって若くして出産する少女たちがいること、さらには、かつて被害者であった子どもたちが成長し、再び子どもを誘拐する側に回ってしまうという深刻な現実について、映像や写真を交えながら説明がありました。

非常に胸が痛む内容である一方、その後リハビリセンターで心身を回復し、再び笑顔を取り戻していく子どもたちの姿にも触れられ、「子どもは未来の宝」という温かいまなざしで語られたことが印象的でした。

参加者からは、「アフリカの子どもたちの厳しい現状がよく理解できた」「涙が出そうになった」「改めて平和の大切さを実感した」といった感想が寄せられました。

神田外語大学と包括協定を締結しました

当財団は、学校法人佐野学園神田外語大学と、学生のボランティア活動の推進に関する協定を締結しました。本協定に基づき、同大学の学生によるボランティア活動が展開され、地域の国際化や多文化共生の一層の推進につながる事が期待されます。語学、日本語学習、多文化共生事業など、神田外語大学の強みを生かした分野において、学生に向けたボランティア募集情報を提供し、外部からの依頼者に対して学生ボランティアの紹介が行えるようになったほか、財団が誘致を行ったMICE事業※1におけるボランティアについても、協力を依頼します。



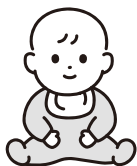
締結式の様子

さらに、災害発生時に千葉県と連携して当財団が運営する「災害時多言語支援センター※2」の設置にあたり、外国人向け情報発信等への協力も依頼します。本協定を通じて、学生の学びと実践の機会を広げるとともに、地域社会における多文化共生の実現に寄与していきます。

※1 MICE…企業等の会議（Meeting）、報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際会議（Convention）、展示会・見本市等（Event/Exhibition）の総称で、多くの集客・交流が見込まれるビジネスイベントを指します。

※2 災害時多言語支援センター…災害発生時に、日本語の理解が困難な外国人に対し、情報提供や相談対応を行うことを目的として、千葉県と連携・協力しながら運営する支援拠点です。

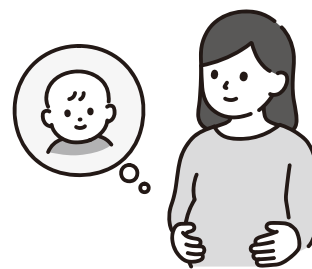
日本と外国の子育てココが不思議！素敵！ 外国人保護者の子育て体験から考える多文化共生（オンライン1/20）



日本人であっても、初めての出産や育児には不安や戸惑いがつきものです。まして外国人にとっては、文化や習慣の違いに加え、出産時特有の専門用語の理解など、日本語がある程度できていてもさまざまな困難があります。日本で生まれる外国人の赤ちゃんは2024年に2万人を超え、今後も増加が見込まれています。

このような状況を踏まえ、外国人の出産・育児の大変さをより多くの方に知っていただき、多文化共生社会実現へのヒントとしていただくことを目的に、オンラインセミナーを開催しました。

前半では、アメリカ、ベトナム、中国出身の外国人保護者3名にご登壇いただき、日本での出産・育児で戸惑ったことや、母国との子育ての違い、日本で感じた魅力について、実体験を交えて語っていただきました。中国出身のテイさんは、保健師による新生児訪問の際に自身の乳腺炎が判明し、中国にはない制度にとっても助けられたことなどを紹介されました。ベトナム出身のヒエウさんは、授乳が比較的自由にできる母国との違いに戸惑った経験を語りました。また、アメリカ出身のレスリーさんは、母国に比べて日本では妊婦健診の回数が多く安心できた一方で、体重管理が厳しい点に驚いたエピソードなどをお話されました。



後半では、当センターが今年度実施した「多文化子育てサロン」の実践報告を行いました。当日の様子を収めた動画の視聴に加え、広報の仕方、運営上の工夫や課題などを報告し、サロンの運営方法やポイントについて共有しました。福岡や金沢、三重など遠方からの参加もあり、外国人母子支援への関心の広がりが見られました。

◆帯同家族向け基礎日本語教育

日本語をはじめて学ぶ外国人を対象とした日本語クラスです。全24回の本クラスは主にオンラインで実施され、日本語を学ぶだけでなく、日本食づくりの体験といった、日本の生活に慣れてもらうためのオリエンテーションも行いました。

はじめてのにほんご in よつかいどう (8/18~11/26)

四街道市内外から毎回20名ほどの受講者が参加しました。みなさん熱心に学び、講師への質問も積極的に交わされました。受講者間の交流の機会にもなり、生活オリエンテーションでは房総太巻きづくりや健康体操などを笑顔で楽しまれていました。



全てのクラスを終えました！
(はじめてのにほんご in ちば閉講式より)

はじめてのにほんご in ちば (11/28~1/30)

千葉県内から8か国、計20名の受講者が、交流を深めながら日本語を学びました。閉講時には、多くの受講者が引き続き日本語を学びたいと意欲を見せ、居住地にある地域日本語教室を熱心に調べていらっしゃいました。

◆日本語学習支援と文化理解を学ぶ講座 in 市原 (10/28・11/4・11・18・25)

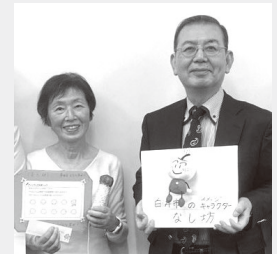
日本語学習支援に関心のある11名の方々が、多文化共生や、やさしい日本語など、支援活動に必要なテーマをもとに、グループワークなどを通じて理解を深めました。将来支援者として活動したいと意欲を見せてくださる方々が熱心に参加くださいました。



グループワークの様子 (市原市にて)

◆地域日本語教育フォーラム (オンライン 1/15)

「できることから始めよう！地域で育てる日本語教室」というテーマのもと、71名が参加されました。国際教養大学専門職大学院特命教授の伊東祐郎氏より「人間関係作りー地域日本語支援のはじめの一步ー」について基調講演をいただき、「Oh♪しゃべりあ〜も」を主催する白井国際交流協会理事の樽見秀爾氏と、日本語サポートボランティア教室「かくれんぼ」代表の多田加代子氏に活動事例を紹介いただきました。地域交流や地域での生活を楽しくしてもらいたい思いを軸に活動されている内容に、参加者のみなさんから「外国の方への寄り添い方を教わった」などの感想をいただきました。



事例をご紹介くださった
多田氏 (左) と樽見氏 (右)

◆災害時外国人サポーター養成講座@成田市 (11/8)

千葉県・成田市と共催で、災害時に外国人支援を担うボランティアを養成する講座を実施しました。サポーター向けの講座では、実際の多言語支援センターの立ち上げを想定した演習のほか、会場に簡易トイレやテントを設置し、疑似避難所で外国人被災者の話を聞く巡回訓練も行われました。

◆多文化子育てサロン@千葉市 (11/11・12/6・1/10)

外国人親子と日本人親子と一緒に子育てについて学び、交流する「多文化子育てサロン」を、千葉市の高洲・子育てリラックス館にて開催しました。参加者同士でそれぞれの国の子育ての工夫や習慣を紹介し合ったり、出産や育児の悩みを気軽に語り合ったりしながら、各回のテーマについて楽しく学びました。文化や習慣は違っていても、子育ての悩みや喜びには共通することが多く、国籍や言葉の壁を越えて、親子同士のあたたかな交流が生まれていました。



赤ちゃんとのふれあい方もさまざま (12/6)

各回のテーマ… 11/11 赤ちゃんがわかりやすい風邪とその対処について知ろう
12/6 赤ちゃん和多言語で遊ぼう
1/10 妊婦さん・赤ちゃん連れの防災

◆ちば多文化みらい共創講座

在住外国人と小中学生や医療施設等で生活する子どもたちを対象に、交流を通じて多文化共生について学ぶ授業を自治体国際交流協会の助成事業及び一部県事業として実施しています。

@我孫子市立高野山小学校 (1/28)

6年生の皆さんに台湾、カナダ、オーストラリア出身の講師が講演を行いました。講師たちは次々にクイズを繰り出して、地理や歴史、生き物、食文化、学校生活など、お国の魅力をたくさん紹介してくれました。講演の後、講師たちはクラスと一緒に給食をいただき、昼休みは校庭でドッジボールも。講師たちにとっては「日本の小学校体験」となり、まさに多文化相互交流の一日でした。



台湾のお茶とおやつ「ひみつ」を教わりました

@東海大学附属浦安高等学校中等部(1/31)

「比較文化体験講座」として、ミャンマーおよびインドネシア出身の講師による出身国紹介を通して、文化や生活の違いを学びました。インドネシア出身講師の講演では、民族衣装や実際の紙幣などに直接触れながら、日本で生活でいいと思ったことや、残念に思ったエピソードなどを、ユーモアを交えてお話しくださり、楽しい交流の中での学びが印象的でした。多文化を身近に感じる体験を通じて、一人ひとりの理解と関心が深まる時間となりました。



はじめて触れるインドネシアの民族衣装

その他の開催はコチラ

11/12,19	クラーク国際記念高等学校 千葉キャンパス	ネパール、カナダ
11/14	千葉市立高浜中学校	中国、オーストラリア、台湾、ペルー、ミャンマー、 インドネシア、ウクライナ、スリランカ、アメリカ
11/26	印西市	スウェーデン
11/28	土気高等学校	台湾、アメリカ
12/3	松戸特別支援学校	中国、オーストラリア

12/20	印西市	ミャンマー
1/17	船橋市立海神公民館	ウクライナ
1/26,29	八千代市立大和田西小学校	ミャンマー、ペルー
2/27	印西市	台湾
2/27	船橋市立二宮中学校	アメリカ、ペルー、中国、ミャンマー、 モンゴル、ベトナム

◆外国人相談担当者意見交換会 (オンライン 2/19)

県内で外国人相談・生活支援に携わる担当者を対象に、参加者同士の情報共有とネットワーク強化を目的とする「担当者意見交換会」を開催しました。前半は、立花朋弁護士より「日本人・外国人夫婦が離婚するときの法的問題点～具体的なケースに沿って考える～」と題し、具体例をもとに、注意すべき点や離婚後の在留資格についてご講義いただきました。後半は弁護士・行政書士の先生方も交え、現場で抱える課題について意見交換を行うとともに、専門家に直接質問できる貴重な機会となりました。

令和8年度 外国人のための無料法律相談 日程のお知らせ

千葉県国際交流センターでは、千葉県弁護士会・千葉県行政書士会と協力し、毎月2回(水曜日)に法律相談を、2ヶ月に1回(月曜日)に行政書士相談を無料で実施します。(全日程、多言語通訳あり ★の日が行政書士相談)

4月	8日(水) 22日(水)	6月	10日(水) 24日(水)	8月	5日(水) 19日(水)	10月	7日(水) 21日(水)	12月	2日(水) 16日(水)	2月	3日(水) 17日(水)
5月	11日(月)★ 13日(水) 27日(水)	7月	6日(月)★ 8日(水) 22日(水)	9月	2日(水) 14日(月)★ 16日(水)	11月	4日(水) 16日(月)★ 18日(水)	1月	6日(水) 18日(月)★ 20日(水)	3月	3日(水) 15日(月)★ 17日(水)

令和8年度以降の千葉県国際交流センターの広報について

いつも会報『国際交流つうしん』をお読みくださりありがとうございます。本誌は1991年に創刊し、賛助会員をはじめ、県内市町村、国際交流協会といった関係団体に弊センター事業や国際交流に関連する情報をお届けしております。

近年のデジタル化の発展に伴い弊センター広報の方針を見直し、みなさまにタイムリーな情報提供を実現するため、HPやSNSなどの活用の強化を図ると同時に、本会報『国際交流つうしん』については、令和8年度より以下のとおり変更します。

令和7年度まで

- ・カラー／モノクロ掲載
- ・年3回発行
(7・11・3月)
- ・紙媒体を配布
(HP掲載を除く)



令和8年度より

- ・全ページカラー掲載
- ・年2回発行 (9・3月)
- ・デジタル版をHPで掲載



◆弊財団の理事・評議員、および弊センターの賛助会員のみなさまには従来どおり紙媒体を配布いたします。

◆デジタル版最新号のお知らせメールをご希望の方は右のQRコードよりご登録をお願いします。



最新号のお知らせメールの登録はこちら▶

千葉県国際交流センターHP&SNS

千葉県国際交流センターでは、センター主催のイベントや県内の国際交流・協力団体の情報の他、各種相談窓口や日本語教室のリストなど、外国の方にも役立つ情報をホームページで紹介しています。また、Facebook・Instagram・X（エックス）で最新情報も発信していますので、ぜひご覧ください。

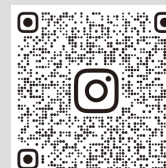
HP



Facebook



Instagram



X



令和8年度 事業計画

事業	内容	時期(予定)
国際交流ボランティア	語学、ホストファミリー、文化、事業、日本語の各ボランティアの登録・紹介	随時
ホームページ等による情報発信	在住外国人向けの生活支援情報やセンター事業等について発信	随時
会報誌「国際交流つうしん」	当センターの事業や国際交流・多文化共生に関する情報等を掲載	9月・3月
千葉県外国人相談	在住外国人の電話・来所・メールによる生活相談への対応(13言語)	随時
外国人のための無料法律相談	外国人の生活上の法的問題に弁護士、行政書士が対応、通訳手配も可	定期
ちば多文化みらい共創講座	外国人講師による出身国の紹介と、グループワーク等を中心とした交流授業の実施	随時
日本語学習支援者基礎講座	日本語学習支援者に必要となる基礎的な知識や素養を養うための研修	6～3月
日本語学習支援者フォローアップ講座	日本語学習支援者の指導力向上を図る講座	6～3月
千葉県地域日本語教育フォーラム	地域日本語教育の理解を深める為の講演、参加者間の交流・意見交換	年1回
外国人相談基礎知識研修	在住外国人の生活支援に役立つ、基礎的事項を学ぶ講座	年1回
外国人相談担当者意見交換会	県内の外国人相談担当者及び支援機関向けの講演・情報交換	年1回
国際理解セミナー	県民に広く、国際理解を図る講座	年2回
国際交流・協力等ネットワーク会議	市町村、市町村国際交流協会、民間国際交流団体等による情報交換	年1回
災害時外国人サポーター養成講座	災害時に外国人をサポートする人材を育成する講座	年2回

教師海外研修の報告会を行いました!

JICAの「教師海外研修」を通して、また開発教育を通して子どもたちに途上国のリアルを伝えたいという熱い気持ちを持つ先生方と報告会を行いました!

2月15日、JICAの「教師海外研修報告会」を開催しました。みなさんは、JICAが開発教育支援事業を実施していることをご存知でしょうか。JICAはこれまで多くの開発途上国で国際協力を行ってきました。その経験から得た知見を日本社会へ還元し、皆さまと共に「感じ、考える」機会をつくることで、日本の教育へ貢献したいと考えています。その取組の一つが、JICA教師海外研修です。

JICA教師海外研修には、大きく2つの目的があります。1つ目は、研修を通して開発途上国の現状や課題、日本との関係、国際協力の意義、SDGs（持続可能な社会）について理解を深め、学校現場で国際理解教育・開発教育を継続的に実践していただくこと。2つ目は、研修成果を地域の学校教育関係者へ還元し、国際理解教育・開発教育の普及や促進につなげていただくことです。

この研修は1965年に日系移住地へ高校教員を派遣したことから始まり、これまで全国から約3,500名の教師、教育行政官が途上国を訪問してきました。現在は、全国の拠点を通じて年間約110名の先生方が参加しています。



発表の様子

今回の報告会では、千葉県で子どもたちと日々向き合う5名の先生方が登壇しました。校種は小学校、特別支援学校、高校と幅広く、研修先もバングラデシュ、タンザニアと多岐にわたりました。小学校教員は現地の写真や自身の体験をもとに、6年生と「ウェルビーイングとは何か」を考える授業を展開しました。高校教員は情報科でデータの背後にある現実を読み解かせ、地理教員と連携した教科横断の学びへ発展させました。特別支援学校の教員は、子どもたちの五感に働きかける授業づくりを通して「目の前の子どものために何ができるか」を問い続けました。また、別の高校教員は、研修で得た気づきを手作り教材（モノポリー）として授業に取り入れ、自身の変容と向き合いながら挑戦を重ねました。さらに、小学校教員の一人は、教室にしながら世界とつながる学びを目指し、各国にゆかりのあるゲストを招いて、

子どもたちへ実体験に近い学習機会を提供しました。

1年間の研修を通して学びを実践に結びつけ、子どもたちの変容だけでなく、自身の成長にも誠実に向き合った先生方の姿は、教育の持つ力と可能性をあらためて感じさせるものでした。

JICAは今後も、学び続けながら子どもたちに寄り添う教師の皆さまを応援し、国際理解教育・開発教育の広がりにも寄与してまいります。

(参考：JICAの開発教育支事業 https://www.jica.go.jp/activities/schemes/partner/dev_education/index.html)

JICA東京 教師海外研修とは?

教員の方々が実際に開発途上国を訪問することにより、途上国が置かれている現状や国際協力の現場、途上国と日本との関係に対する理解を深め、帰国後は学校現場での授業実践等を通じて、児童生徒の教育に役立てていただくことを目的として実施しています。また、本研修修了後も、教育現場で開発教育・国際理解教育に取り組む中核人材として活躍いただくこともねらいとしています。現地での学びを授業に生かすため、海外研修の他に訪問前の事前研修・訪問後の事後研修に加え、2月の実践報告会で一般の方々に向けて授業の実践報告にご参加いただき、1年間を通じた深い学びを目指しています。

(参考：<https://www.jica.go.jp/domestic/tokyo/activities/kaihatu/kaigaikenshu/index.html>)

JICA千葉デスクへのお問い合わせは以下までお願いいたします。

千葉県国際交流センター内 JICA千葉デスク 岡本 多永

TEL：043-297-0245 / 090-4024-0441

FAX：043-297-2753 E-mail：jicadpd-desk-chibaken@jica.go.jp





世界からようこそ千葉県へ!

ミャンマー連邦共和国



※外務省ホームページより引用

今回は、出前講師として活動くださっているジュジュケーターさんの寄稿です。ジュジュケーターさんは2022年に来日し、大学院で学びながら千葉県の多文化共生事業に協力くださっています。ジュジュケーターさんより母国ミャンマーを代表する都市やお祭りについて教えていただきます。

ミャンマー連邦共和国は東南アジアに位置する自然と文化に恵まれた国で、首都はネーピードー、最大都市はヤンゴンです。ミャンマーは135以上の民族からなる多民族国家であり、バマル族を中心に、カチン族、カヤー族、カイン族などが共に暮らしています。それぞれが独自の言語、衣装、音楽、食文化、宗教的伝統を持ち、多様性に富んだ社会を形成しています。国民の約9割が上座部仏教を信仰しており、僧侶への敬意や托鉢の風景は日常生活の一部となっています。寺院やパゴダ（仏塔）は町の中心に位置し、人々の精神的支柱となっています。



左上から カヤー族、カチン族、カイン族、チン族
左下から バマル族、モン族、ラカイン族、シャン族

古都バガン 仏塔が織りなす歴史の大地

ミャンマーを代表する歴史都市といえば、世界遺産にも登録されているバガンです。11世紀から13世紀にかけて栄えたバガン王朝の都であり、最盛期には一万以上の仏塔や寺院が建てられました。現在も数千の建造物が広大な平原に点在し、特に朝日が昇る時間帯や夕暮れ時には、赤く染まる空と無数のパゴダが幻想的な風景を生み出します。



熱気球から眺めるバガンの景色は世界的にも有名です

ティンジャン祭り ミャンマーの水かけ祭り(新年祭り)

ミャンマー最大の祭りは、ミャンマー暦の新年にあたる4月に数日間行われるティンジャンです。人々は道路に特設ステージを設け、音楽を流しながら水を掛け合います。この水には「過去一年の悪い出来事や罪を洗い流す」という意味が込められています。

若者は伝統舞踊を踊り、歌を歌い、家族や友人と共に祝います。同時に、高齢者や僧侶に対して敬意を示す行事も行われます。



伝統舞踊を踊りながら水を掛け合う様子(ティンジャン祭り)

タディンジュ 光と感謝の祭り

10月頃に行われるタディンジュは、「光の祭り」として知られています。仏教の雨安居（うあんご、ワッソー）が終わることを祝う行事であり、家や寺院、街路が色とりどりの灯りで飾られます。この時期には、子どもや若者が両親や教師、年長者のもとを訪れ、感謝の気持ちを伝えます。許しを請い、祝福を受ける伝統もあり、人々の絆を再確認する心温まる行事です。



色とりどりの灯りで町があたたかな光に包まれるタディンジュ

ミャンマーは、豊かな自然や歴史遺産、温かい人々に恵まれた国です。日本と同様に仏教文化を共有していることから、精神的な共通点も多く感じられます。今後も日本とミャンマーの友好関係が深まることを願っております。



公益財団法人 ちば国際コンベンションビューロー 千葉県国際交流センター

〒261-8501 千葉市美浜区中瀬一丁目3番地 幕張テクノガーデンD棟14階
TEL: 043-297-0245 FAX: 043-297-2753 E-mail: ied@ccb.or.jp

<https://www.mcic.or.jp/hgo!>

センター事業の紹介、最新ニュース、講座やイベントなど役立つ情報を掲載。

年3回発行
(7,11,3月)